

# 教育子育て九条の会

ニュース No. 20

2015年2月15日

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-4 小山ビル6階 小笠原法律事務所内 TEL/FAX 03-3255-6860  
ホームページ <http://www10.ocn.ne.jp/~kyoiku9/> eメール [kyoiku-kosodate9@tenor.ocn.ne.jp](mailto:kyoiku-kosodate9@tenor.ocn.ne.jp)

「イスラム国」の蛮行に対して、自民党と安倍政権は9条を変えて自衛隊の武力行使に道を開こうと勢いついています。しかし、武力による報復の応酬は、憎しみの連鎖と絶望的な破壊、そして深い悲しみ以外のなにものも生みだせません。9条に基づく平和的な手段による解決こそ、日本が世界に発信し、率先して実行することの重要性を明らかにしています。

記録集が  
できました

## 許すな 戦争する国・人づくり、守ろう 子どものいのちと人権 憲法を地域に生かそう！みんなのつどい

2014・12・7 埼玉 主催：教育子育て九条の会／第7回 全国交流集会埼玉実行委員会

昨年10月24日、東京都大田区で「子どもと教育、平和を考えるつどい」を開きました。概要を次ページに紹介します。

九条の会ホームページから (概要)

詳しくはホームページ参照

### 3月15日に 九条の会 全国討論集会を開催します

安倍政権は、1月26日に始まった通常国会で、憲法9条の破壊につながる戦争関連法制の改定案や自衛隊海外派兵恒久法案などを提出しようとしています。私たちは、先般の集団的自衛権の政府解釈見直しの不当な閣議決定に沿ったこれらの憲法違反の諸法制を断じて容認できません。これを許せば、日本はまさに「戦争する国」になります。

安倍政権のこの危険な企てに対して、九条の会はどのように活動するべきかを語り合うため、下記の次第で「全国討論集会」を開催します。全国からの参加を期待します。近隣の会にもぜひこの討論集会の開催を広めて、声をかけあってご参加ください。

【日時・会場・主催】

日時 2015年3月15日(日) 午後1時20分～5時  
会場 専修大学神田キャンパス301教室  
(東京都千代田区神田神保町3-8)

主催 九条の会

【参加申込】

参加資格 全国の地域・職場・分野別の九条の会のメンバーに限る

申込方法 所定の参加申込書に記入し、FAX、メール、郵便で申し込みを。3月7日(土)必着(厳守)。

★ 参加申込書は九条の会のサイトに掲載。あるいは九条の会事務局に請求を。

★ 当日の直接参加は不可。必ず事前申し込みを。

【参加費】 無料

【問い合わせ】 九条の会事務局 TEL03-3221-5075

### 集団的自衛権の行使・憲法「改正」ストップ！ 憲法を守りいかにするために カンパのご協力をお願いします！

教育子育て九条の会の活動にご支援をいただき、ありがとうございます。会の活動はすべて皆様のカンパで支えられており、埼玉集会も皆様のご協力をいただき、成功させることができました。

しかし、いよいよ憲法をめぐるたたかひの正念場となる今年、さらに活動をひろげていくためには、財政的に大変厳しい状況になっております。消費税増税など、なにかと経済的な負担がかさむ折からまことに恐縮でございますが、いっそうのご支援・ご協力をいただきたく、よろしくごお願い申し上げます。

郵便振替 [口座番号] 00170-0-616245、 [加入者名] 教育子育て九条の会

# 子どもの未来はどうなるの？

## 教育と教科書の統制、集団的自衛権、憲法「改正」

「子どもと教育、平和を考えるつどい」が2014年10月24日（金）、東京都大田区立消費者生活センターにて開かれ、夜間にもかかわらず150名を超える参加がありました。

教育子育て九条の会、大田教職員九条の会、大田子どもを守る会、大田ファミリー映画会、公正な教科書採択を求める大田区民の会、東京南部法律事務所、都教組大田支部が共催し、大田区労協、大田労連、新婦人大田支部が協賛しました。

「つどい」は教育子育て九条の会第9回連続学習会としても位置づけました。

司会は、鷺北久子さん（公正な教科書採択を求める大田区民の会）、石川諭紀子さん（教育子育て九条の会）。

大坪庄吾さん（公正な教科書採択を求める大田区民の会）が開会のあいさつを行いました。

### 第I部



進行は小森陽一さん（九条の会事務局長）。

### いま、あらためて考える

#### 憲法の平和主義と基本的人権、子どもの権利

ミニ講演

#### 堀尾輝久さん

（教育子育て九条の会呼びかけ人、東京大学名誉教授）



自民党の改憲案の本質は9条を変えることにとどまらず、立憲主義を変え、人権、国民主権、平和主義の憲法を軸とした国のかたちそのものを変えることにある。

重要なことは、現行憲法第10章「最高法規」の第97条（基本的人権の本質）を全文削除したこと。人類がたかひを通して勝ちとってきた人権の思想、自由の原理を抹殺しており、ここに改憲論の本質が見える。

9条は決してマッカーサーにおしつけられたものではなく、当時の幣原首相のアイディアである。日本国憲法は国連憲章の理念をも超えたものである。すなわち国連憲章が出来た後に、広島・長崎の被曝を体験した日本が、戦争のみじめさや加害の責任も含めて、歴史の教訓として、9条を生み出したのだということを強調したい。

下村文部科学大臣は「子どもが未来への希望を失っている、孤独である」との危機意識をもち、それは戦後教育に問題があったので、道徳教育の強化など「教育再生」を行うのだという。「教育勅語もいいことが書いてある、授業で使ってもいい」という。

アメリカは9条を変えさせ、日本をより強固な軍事同盟に組み込もうとしているが、こうした日本の過度なナショナリズムへの懸念も抱いている。

子どもの貧困は、経済的な貧困だけでなく、親や教師、友だちなど周囲の人間との関係性の貧困も問題である。教師は多忙で、しかも授業のために、子どものために使う時間が国際的にみても少ない。

こうした様々な状況の中で、子どもたちが未来に希望が持てない状況になっているのである。

憲法を子どもの視点から読むことが重要である。

人権をおとなだけでなく子どもにも応用すればいいというのではない。子どもには、子どもという存在に即しての固有の権利がある。この視点から憲法を読み解くことにより、憲法そのものの見方を豊かにし、人権そのものを豊かに発展させる視点になっていくと考える。

教育を受ける権利も一人ひとりの人権としての権利。子どもには真理真実を学ぶ権利があり、それに責任をもつ教職員には教育の自由が保障されなければならない。

特別報告

教育、平和



## もうごめん、戦争への道をひらく教科書は

村石真依子さん

(公正な教科書採択を  
求める大田区民の会)

「公正な教科書採択を求める大田区民の会」は2001年に結成された。200人を超える人間の鎖で教育委員会を包囲し傍聴・要請をしたり宣伝などにとりくみ、これまで3回にわたり「新しい歴史教科書をつくる会」系の教科書の採択を阻止してきた。

ところが4回目である2011年8月4日、大田区は育鵬社版の中学校歴史・公民教科書を採択した。

教科書は、各学校の教員が出す資料、教科書展示会における一般区民などの意見、各学校の校長がとりまとめた学校意見を集約し、教育委員会が採択する形になっている。現場からは反対の意見が上がっているにもかかわらず、教育委員会は育鵬社の教科書を採択したのである。

育鵬社の教科書宣伝パンフには、「日本の歴史は天皇の歴史でもある」「戦後の占領政策のまちがいで憲法はつくられた」などと書かれている。

教師たちは、自主的なプリントを配ったりして工夫しているが、テストの時には教科書を使わざるを得ず、くやしい気持ちでいっぱいである。同じく育鵬社の教科書を使われている横浜では、「日本の戦争は自衛のためだったんでしょ」「歴史を学ぶのはご先祖様のためだと思う」という生徒が出はじめているという。

2015年は中学校教科書の採択がある。教育委員会制度の改悪により、首長と教育長の意向で育鵬社が採択される危険も大きい。また、安倍晋三は「新しい教育基本法の趣旨を最もよく踏まえた教科書は育鵬社であると確信する」と公言しており、安倍内閣とのたたかいとして位置づけていきたい。

この10月15日に「大田子どもの教育連絡会」を再結成した。「安倍『教育再生』から大田区の子どもたちの教育を守る。大田区で育鵬社・自由社版教科書の採択をさせない」が目的。一緒にがんばりましょう。

未来を担う仲間へ

教育、平和



## 日本国憲法こそ若者の希望 ～ 歴史の岐路に立って

白神優理子さん

(八王子合同法律事務所、  
元高校生平和ゼミナール)

今年弁護士になった新人で、原爆症認定集団訴訟、横田基地爆音訴訟、過労死の問題・労働事件などをあつかっている。平和問題の学習会の講師や、若者の平和の企画、生放送動画などにとりくんでいる。

「集团的自衛権と日本国憲法」というレジュメや資料をお配りしたが、今日は私自身の体験を通して、若い人が戦争について学ぶことの大切さをお話したい。

私は中学時代、社会問題に関心はあったが、世の中に絶望して鬱々とした毎日を過ごしていた。それが今のように変わったきっかけが三つある。

一つは、戦争体験者の生の声を聴いたこと。広島、長崎、沖縄での話や「従軍慰安婦」の方の話聴いた。

ひどいあつかいを受け人生を破壊された「慰安婦」の方は、自分の名前を抹消された家系図を握りしめて、日本に誤ってもらい家系図に自分の名前を入れてほしいと訴えていた。

そして沖縄戦の話。「日本軍は私たちを助けるどころか手榴弾を配った」「父親はスパイだと言われて日本軍に殺された」「自分の子どもを手にかけた」など。

これが戦争の本質なんだと実感こめて学んだ。

生の話を聞くことで自分のこととして考えることで、世の中を見る目が変わった。戦争につながるたくらみがどこにあるのかに敏感になって、自分のこととして考えるようになった。

二つめ。戦争体験者は必ず最後にこう言った。「あなたが次の社会をつくる主人公であって私たちの希望。日本国憲法こそが希望なんです」と。国家の暴走によってあの戦争は引き起こされた。でも今度の憲法はちがう。今度こそ、国家権力の手を縛ろう、これが立憲主義だ。歴史は変わっていく、発展していくんだ。人間は無力じゃない、こんなことができるんだと高校生ながらに感動

した。自分に自信を持つことができた。

私は、戦争体験者の話と、発展してきた人間の歴史の象徴である日本国憲法に出会ったこと、この二つの学びを通して弁護士になり、渡されたバトンを次の世代に引き継ごうと思った。

三つめは、権利を獲得するために、あきらめずにたたかっているおとなの方との出会いが大きかったこと。

安倍政権のやっていることは、子どもを戦争に連れ出そうとする罪とともに、教育の場で戦争の実態や歴史の進歩を学ばせないのは、子どもたちから自信や希望を奪うこと。人権侵害だ。

ナショナリズムにあこがれを抱く若者もいるが、この社会で自分に自信が持てない時に、アイデンティティを国家にゆだねるしかない。国家のためにがんばろうと考えるのではないか。

人間は歴史を発展させることができることを伝え、子どもや若い人たちに希望を語ることが大切である。

.....

白神さんの発言に続いて、東京の高校生平和ゼミナールの高校生からカンパの訴えがありました。

小森陽一さんのまとめ

### 安倍政権の本質をしっかりと見極め、とりくもう

教育子育て九条の会は、安倍政権と草の根の運動の対決の真っ只中、12月7日に埼玉で全国交流集会を開く。

九条の会としては初めてこの10月に、解釈改憲による集団的自衛権の行使を撤回させるための全国統一行動を呼びかけ、とりくみが始まっている。

あらためて歴史認識の問題、とりわけ教科書に対する攻撃と自衛隊の海外派遣にむけての9条改悪の動きが連動していることを振り返りたい。

1990年に始まった湾岸戦争の時、自衛隊の海外派遣

がねらわれたが、この時は出なかった。それは憲法9条があったからであり、世界中に9条の存在が知られた。

安倍政権の“歴史的使命”である本質はどこにあるかをしっかりとらえよう。彼らは、自衛隊に海外で武器を使わせることと、武器を使う自衛隊に入る子どもをつくる歴史教育を一体のものとしてすすめようとしている。これを本集会の大事な認識として共有したい。

### 第II部

### 会場からの発言

会場からは、報告者への質問や意見が寄せられ、あわせて4人の方からの発言がありました。

○育鵬社の教科書を子どもに使わせないために

母親の立場から (塘岡裕紀さん)

○戦争はさせない 憲法を守る運動を積み重ねて

憲法9条大田女性の会(金子典子さん)

○子どもたちの現状と教職員のたたかい

教育現場から(水上謙次さん)

○育鵬社「公民」教科書は「戦争する人づくり」

弁護士(長尾詩子さん)

森 峰太郎さん (都教組大田支部執行委員長) が閉会のあいさつを行いました。



### 感想文から

白神さんのように若い方が戦争を自分のものとして考え、平和のために活動していることは、素晴らしいし嬉しいです。(50代、男)

教育再生の中身をしっかりと勉強して、教科書だけでなく、子どもたちのおかれている現状について、若いママたちに知らせていく取り組みをしていきたいです。(40代、女)

これからも参加したいと思う会でした。一人の講師が1時間以上しゃべっていると退屈することが多いので、今回のように複数の方が手短かに語ると聞きやすいです。(50代、男)

「平和についての憲法の必要性」を強く感じられた。感じたことを一人でも多く人に伝えて、一緒に行動する人を増やしてゆきたい。(女)